



電子図書館の公共図書館 導入への課題点

公共図書館の良い形で取り入れていくには

成田市立図書館

米田 渉

adm@library.narita.chiba.jp

前振り

- 日本の知のインフラに、公共図書館をきちんと位置付けし、組み込んでおかないと、先進国はおろか、伸びてきているアジア各国などに、経済だけでなく、知的基盤においても遅れていってしまうのではないか。

電子書籍の種類

- A (図書館) 図書館電子化資料
(自治体電子化資料、地域資料)
- B (国会) 国立国会図書館配信資料 (go.jp関係資料)
- C (Public) パブリックドメイン (青空文庫)
- D (商用) 商用 (データベース、電子書籍)

著作権から分けてみる

- 図書館（自治体）
- ない
- 他者にある

A（図書館）

C（Public）

D（商用）

} B（国会）

利用方法から分けてみる

- オンライン A (図書館) B (国会) D (商用)
 - オフライン
- } C (Public)

図書館の電子図書館サービスが 伸び悩んでいる理由は

- 1) 一発芸としての電子図書館サービスは、正直失敗？
- 2) ICタグの二の舞を演じたくない
- 3) 自治体の会計問題

図書館の電子図書館サービスが 伸び悩んでいる理由は

2) ICタグの二の舞を演じたくない

- 複数規格が乱立
- 特定ベンダーの囲い込み←システムの複雑化
- バーコードのようにすべきであった。目先のことしか考えていないものに億単位での投資はできない。
←しているけれど

電子図書館を健全に伸ばすには

1) 2) に関わることとして

- 図書館がデジタル化した資料の著作権は、図書館（自治体）にする。
- システムは標準化志向で、配信するコンテンツの規格の更新は常に対応できるようにしたい。アクセシビリティ問題でもある。
- 国立国会図書館がやるところはそこに集約。それ以外は各自治体ではなく、せめて県レベルで共同調達したい。（かつ規格の統一化を）

電子図書館を健全に伸ばすには

3) に関わることとして

- オフライン（モバイル）が提供できないと、いわゆる電子書籍は伸びないのではないか。
- 「貸出」機能が必要なものにはDRMの実装を

電子図書館を健全に伸ばすには

図書館が投資したくないのはオンラインのみというもの

- オンラインのみでOK B (国会)
 - オフライン化したい C (Public) D (商用)
- } A (図書館) は
オフラインを
増やす

ここが大事

その他のポイント

- システムの履歴保存問題（行動追跡できない仕組みを）
- 狭義の電子書籍の提供ベンダーをAppleのiTunesのような寡占化しないような仕組みを
- 提供図書館で、見つけやすさを向上させるためのOPACへの組み込みができる仕組みを

その他のポイント

- 利用者がログインして利用する形式になると思うが、そのIDなどは図書館システム内にする仕組みが必要
- APIを組み込み図書館サイトから各提供ベンダーのサイトに行くような仕組みではなく、図書館OPACから横断検索して図書館コンテンツとして見せる仕組みが望ましい。
- 書誌は、FRBR化しておきたい。

おまけ 公共図書館の役割

- 豊かな出版と豊かな情報流通があってこそその日本の人的資源の向上であると考えている。
- ネットで無料サービスがベースで+ α を有料とすることでサービスが成立していることを見ると、

俯瞰すると、社会全体の中では、図書館の受け持ちが情報流通での無料のところではないか（図書館は購入しているけれど）と考えている。



電子図書館の公共図書館 導入への課題点

成田市立図書館

米田 渉

adm@library.narita.chiba.jp